（様式１）

令和元年度　自　　己　　評　　価　　表

愛媛県立伊予高等学校
学校番号（30）

教育方針	豊かな人間性を育てる教育の推進	重点目標	「魅力ある“伊予の国のＩＹＯＫＯ”を目指して」 ～知性･若さ･規律･思いやり･創造力でチャレンジ!!～ **I**ntelligence　**Y**outh　**O**rder　**K**indness　**O**riginality ア　丁寧に鍛え伸ばす学習指導　　イ　社会規範を確立させる生活指導 ウ　人間力を育成する特別活動

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	適切な科目選択	進路目標に適した科目を選択したと実感できる生徒１００％	A	概ね生徒自身が選択した科目については、満足して授業を受けていることがうかがえる。	今年度より「総合科目選択制」を導入したので、教員側も何とか軌道に乗せるために努力した結果だと考える。毎年、教育課程を見直し、進路実現のため生徒が必要だと思えるものを作っていき、ミスマッチの起こらないようにしていかなければならない。
	分かる授業の展開	授業がよく分かる生徒１００％	B	わかると肯定的に答えた生徒が８割、学力の向上を実感している生徒が７割ほどいる。また、教員も８割がよくわかる授業を実践していると答えている。	教員の努力もあってか、毎年この程度の回答はあるが、学力の「定着」を図る方法が不十分。教科指導委員会等を通じて具体的な対策を考えたい。
生活指導	基本的生活習慣の確立	あいさつのできる生徒１００％	B	校内では伝統的にあいさつが習慣化されているが、あいさつが十分できない生徒も増えてきている。	あいさつの習慣が十分でないまま、入学してくる生徒の割合が増加している。色々な問題を抱えた生徒もいる現状から、適切な指導･支援を通して社会性を育て、気持ちの良いあいさつにつなげたい。
		清掃活動に時間いっぱい取り組む生徒１００％	B	清掃活動に対する生徒自身の自己評価と、教員及び保護者からの評価に大きな乖離が見られ、保護者と教員の評価はほぼ同様であった。	アンケート結果を見る限り、何よりも自分たちが取り組めていると思ってはいるが、周りの評価はそれよりも低いということに気づかせる必要があると考える。気づかせた上で、一人一人の自覚と行動力を高める指導を徹底していきたい。
		５分前登校ができる生徒１００％	B	全体的には指導が定着しており、良好な状態であるが、心身や家庭の問題等もあり、特定の生徒が繰り返す状況である。	５分前登校指導だけでなく、教育相談課や学年団と協力し、生徒をサポートしながら改善を目指したい。
		１か年皆勤生徒各学年１５０名	D	１年生103名、２年生74名、３年生99名（令和２年１月16日現在）と目標を大幅に下回っている。皆勤者総数も年々減少している。	心身や家庭の問題から欠席につながる生徒が増えている。全体的にも精神的な弱さが目立つようになっている。個に応じた適切なサポートに努めるとともに、学校生活を通して強い心を養い、家庭と連携しながら改善を目指したい。
		交通ルールを守る生徒１００％	B	交通マナー等に関して、ヘルメットの着用については良好である。登下校時の並進については苦情もあり、十分とはいえない状況が続いている。	引き続き、ルールを守ることが自他の命を守ることにつながることを粘り強く指導していきたい。
	教育相談体制の充実	相談する相手のいない生徒０	C	生活意識調査では、６％の生徒が「相談相手がいない」と回答し、前年度より２ポイント微増していた。生徒による学校評価アンケートでは、個別面談の充実について、「思う」「どちらかといえば思う」と答えた生徒が90％を占めている。	教育相談係、ＳＬＡの存在を積極的にアピールし、些細な事であっても相談しやすい環境づくりに一層努めていきたい。
		いじめ０	C	アンケート調査や申し出により、１学期１件、２学期２件、３学期０件のいじめが明らかになり、生徒教育課、保健厚生課、人権・同和教育課、学年で連携して調査・面接などの指導を行い、いじめの拡大防止に努めた。	「学校いじめ防止基本方針」のもとで、組織的な対応に努めている。授業やＨＲ、部活動など、教育活動の様々な場面で、今後も、いじめ対策委員会と連携しながら全教職員で取り組んでいきたい。
特別活動	学校行事の充実	充実していると思う生徒、保護者１００％	B	アンケートより100％はいかないが、運動会は生徒は92％、保護者は97％が充実していると答えており、文化祭についてはそれぞれ89％、91％と概ねよい結果になっている。	運動会、文化祭ともに保護者、地域の方々に参加していただく学校行事の活性化、レベルアップに今後とも努めていきたい。
		運動会、文化祭への保護者参加１００％	B	今年度もＰＴＡの方々を中心に多くの保護者に積極的に参加していただき、運動会･文化祭とも充実したものとなった。運動会への参加が71％、文化祭への参加が36％であった。	今後もＰＴＡの方々と連携を図り、積極的な参加を呼びかけていきたい。
	部活動の活性化	部活動加入率９０％以上	B	５月末現在で加入率は88％であった。以降さらに転・退部者の手続きが思った以上にある。いろいろな意味で、続かなくなっている生徒は目立ち始めた。	生徒の多様な価値観に応えられる教員の指導力も大切である。部活動を手段として、どう将来に生かすことができるかを考えた部活動運営を推進していきたい。
		県総体出場２００名、県高文祭エントリー７部門、四国大会以上の大会への出場６部	B	県総体は166名と目標には届かなかった。高文祭エントリー５部門。四国大会以上出場の部、体育部３、文化部２と届かなかった。	部活動週休２日で結果を求めるためには、より充実した効率的、効果的な指導の工夫が必要である。目標達成に向け、日々の部活動に積極的に取り組ませたい。
	ボランティア活動や地域のイベントへの意欲的な参加	ボランティア活動、地域交流への参加件数、年間１０回	A	毎年多くの生徒が積極的にボランティア活動に参加している。特に松前町の交流行事に多くの生徒が参加した。保育所や高齢者福祉施設への訪問もずっと続いている。	地元の地域交流行事へ積極的に参加したり、「総合的な探求の時間」を生かすなどの工夫で、地域との連携を更に深めていきたい。

令和元年度　自　　己　　評　　価　　表

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進路指導体制の充実	ホームルーム担任の個別面談を年６回以上実施	A	各学期における面接カウンセリング週間を利用し、目標を達成できた。（現時点での平均5.0回）ただ、特に低学年では、教育相談的内容や生徒指導面の内容が多く、進路指導面での内容充実を図りたい。	面接カウンセリング週間以外にも、模擬試験などの成績を踏まえて、新入試にも対応できるよう、各時期に応じた進路資料の提供を心がけたい。
		進路希望実現１００％	B	推薦・ＡＯ入試などで３年生の約55％の生徒が進路先を決めている。一般入試を終え、進学先の決まった生徒が多くいる反面、進路先の決まっていない就職希望者も数名存在する。	本人の進路希望を叶えるため、メンタルな部分での啓発が優先事項である。基礎学力の定着とともに進路探求に向けて自走できる能力を早い段階で身に付けさせたい。
		国公立大合格５０名、松山大学合格１５０名	C	国公立大学の合格者は年々減少傾向にあるが、希望者の多い松山大学の合格者数は昨年度に比べかなり増加している（昨年度比1.5倍）。	2021年度入試から始まる大学入学共通テストなどの入試改革に対応すべく、日頃の授業や補修を見直し、保護者へも積極的な情報発信が必要となる。
人権教育	人権・同和教育の充実	学校全体に人権に対する配慮が行き届いていると思う生徒、保護者１００％	C	地域と連携した社会貢献や、人に対する思いやりの意識が校内に徐々に浸透してきている。今後は、気軽に相談しやすい環境づくり、自尊感情の向上が課題である。	人権デーの取組の中で、いじめ問題など生徒にとって切実な課題を何度も取り上げるなどして、人権教育の取組をより浸透させていく方策を考える。
		人権・同和問題学習が充実していると思う生徒、保護者１００％	B	明治初年の学校設立と就学に取り組んだ人物に焦点を当てた講演会を、生徒の演劇や合唱を交えて、校内及び県人権擁護委員連合会の集会で実施し、好評であった。	今後も地域教材をはじめ新しい教材開発に取り組むとともに、クラスで、いじめなどの人権問題に気付いて行動できる生徒の育成に取り組んでいく。
読書指導	朝の読書の深化	朝の読書を有意義だと思う生徒１００％	B	７月に実施したアンケート調査では、朝の読書は「良いと思う」、「どちらかといえば良い」と回答した生徒が、合わせて83％であった。	昨年度の調査より６ポイント上昇しており、昨年度からの取組の成果が認められる。教育方針である「豊かな人間性を育てる」ためにも、多様な書物に触れられる機会を提供していきたい。
	読書指導の充実	年間図書貸出冊数４，５００冊	A	貸出冊数は4,700冊を超え、一人平均５冊の貸出目標を達成することができた。	今後も一人５冊以上の貸出を目安としていきたいと考えている。しかし、利用する生徒とそうではない生徒に分かれている現状があるため、生徒図書委員会の活動を活性化し、生徒から読書を呼び掛ける取組をしていきたい。
学校経営	教職員の意識統一	学校経営方針を理解している教職員１００％	B	12月実施のアンケート調査によると、今年度のマニフェスト達成率は平均して67点、昨年度比微増であった。しかし、達成率80％以上と評価した教員の人数は大幅に増えている。	本校が行っている改革の方向性に対する意識の共有が浸透してきた。教職員の意識統一を図ることは当然であるが、今後は、本校の改革に応じてマニフェストそのものの見直しも進めていきたい。
	教職員の学校への愛着	伊予高を誇りに思う教職員１００％	D	教職員対象の学校評価アンケートによると、学校行事の充実、部活動の活性化、学力の向上、社会規範の指導、読書の奨励の項目で昨年度より大きく評価を下げている。	生徒が一定水準以上の成果を上げるための指導が難しくなっている。基礎学力の低下や家庭も含めての価値観の多様化など、山積する課題への対応をチームとして行うことができるように、教職員間の連携をより深めていく必要がある。
	生徒の学校への愛着	伊予高に来てよかったと思う生徒１００％	C	肯定的な回答をした生徒は82％いたが、昨年度と比較すると２ポイントの減少であった。特に、進路情報の提供と資格取得の支援の項目で評価が下がった。	今年度から総合科目選択制を導入し、２・３年生のホームルーム編成から文系・理系の枠組みをなくしたため、生徒が自身の進路に対してより主体的に取り組む必要が出てきた。入試制度改革をはじめとする生徒の将来の社会的変化の熟知を図るとともに、相談体制を充実させていきたい。
	開かれた学校づくり	授業公開参加者数１，５００名以上	B	授業公開への参加延べ人数は1,000名を超えており前年度比40％以上の増加である。しかしながら、３月中旬に予定していた「総合的な学習(探究)の時間」成果発表会が中止となり、本校の特徴をアピールする機会が失われたことが残念であった。	地域イノベーションコースと芸術クリエーションコースの設置、文系・理系の廃止と総合科目選択制の導入など、本校が行っている改革を発信するとともに、その成果が目に見える形となるように教職員の意識統一と生徒の意欲喚起を図っていきたい。
		ホームページアクセス、年間25万件	A	昨年度は年間287,505件であったが、今年度は３月４日に80万件を超え、大幅な増加であった。	教職員が発信することに慣れ、ホームページの充実が進んでいる。日常的にホームページをチェックしているという保護者の声もあり、今まで以上に情報発信に努めたい。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。